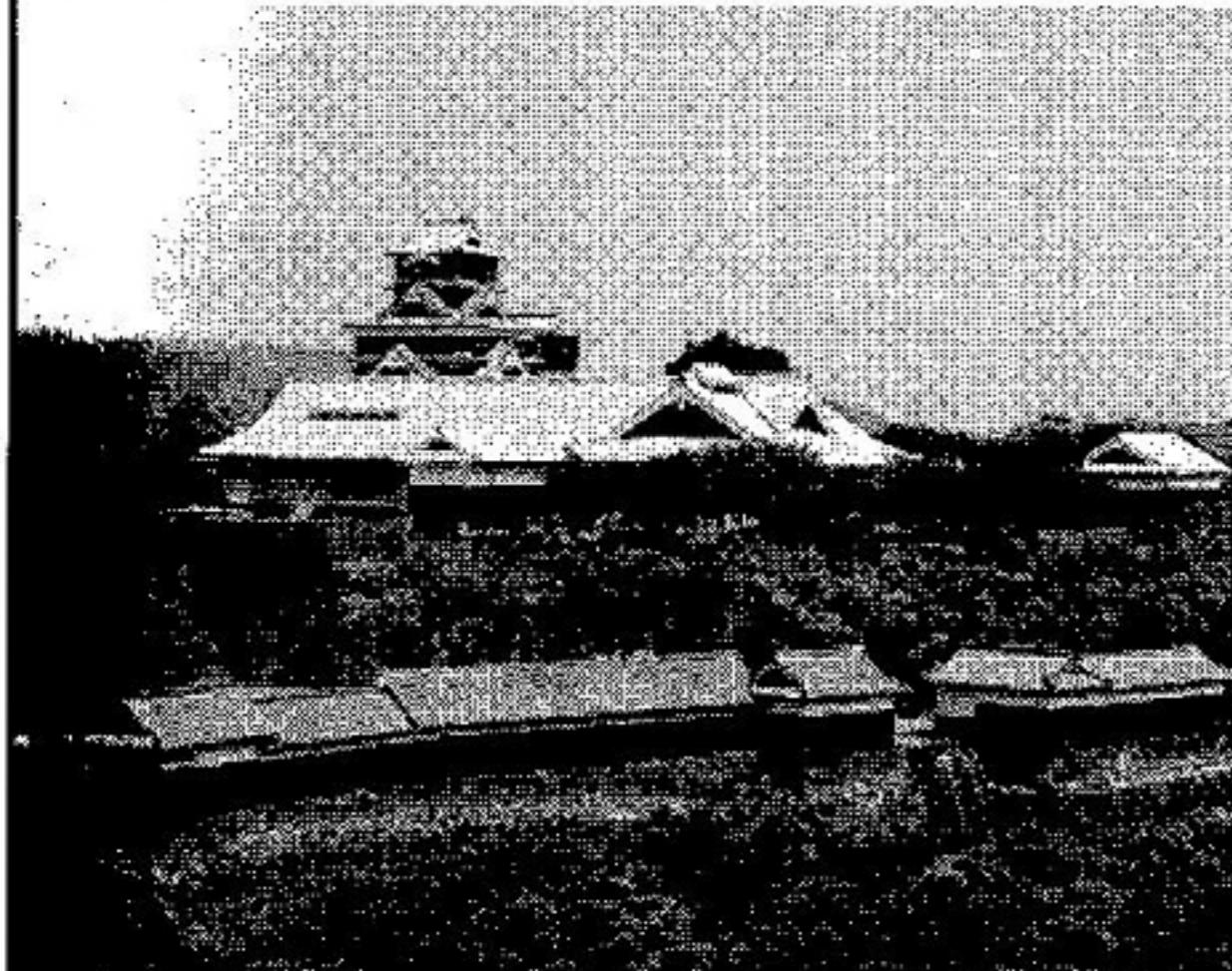


全国自治体 観光プランの今

第19回

本丸御殿と熊本城——熊本県熊本市



陸中海岸・浄土ヶ浜——岩手県

しま嶋 づ津 隆文

松蔭大学観光文化学部教授
観光文化研究センター長

ひろげよう、おもてなしの郷いわて

岩手県

「石川啄木が「おもひでの山 おもひでの川」とうたい
望郷の念を抱き続け、宮沢賢治が「理想郷イーハトーヴ」として思いを重ねた故郷、みちのく岩手の地」。

この書き出しで前文が綴られるのが、平成21年に制定された「みちのく岩手観光立県基本条例」である。もちろんこの二人にとどまらず、この地が輩出した偉人は多い。政党政治の基礎をつくった平民宰相原敬、満鉄初代総裁や東京市長を務めた後藤新平、国際的思想家の新渡戸稻造など近代日本の知性が並ぶ。加えて、春夏秋冬に個性的な彩りを見せる自然や、平泉など古くから伝わる文化が根づくのが岩手の地である。豊かな資源を地域の活性化に生かさない手はない。こうして観光を波及効果の大きい総合産業として捉え、観光立県の実現を目指そうと岩手県は観光条例をつくったのである。

条例制定の一年後の平成22年3月、県は「みちのく岩

「手観光立県基本計画」を策定した。観光条例に基づいた観光振興を、総合的、計画的に推進するための基本的な計画である。加えて、県の総合計画たる「いわて県民計画」の個別施策としての性格も持つ。岩手の豊富な観光資源をひとり県民の誇りとするだけでなく、県外へその魅力を大いに発信しようとするものだ。副題に「ひろげようおもてなしの郷さひといわて」と呼びかける。計画期間は平成21年度から5か年である。

1 観光基本計画の概要

しかし昨今の岩手県の観光動向は、必ずしも喜べるものではない。平成11年以降、県内客は延べ2100万人台から2200万人台で、県外客もほぼ横ばいの1600万人台である。とくにスキー客はここ10年で半減し平成21年には106万人にまで落ち込んでいる。こうした問題点として観光基本計画は次のように指摘する。

- ① 団体旅行から個人・小グループ型旅行へのニーズの変化に対応できておらず、点から面への観光への脱却が不十分である。
- ② 観光客のニーズが人ととの交流に移ってきてている

のに、地域の観光産業を支える人材が不足している。

③ 観光客の約5割が車を利用しているにもかかわらず、道路や標識などの利便性、快適性が不十分である。

④ 岩手の魅力が県外の住民に届いておらず、また海外からの誘客の取り組みが弱い。

こうした分析の上に立ち、岩手県の観光基本計画は、「いわての「ゆたかさ」を未来に引き継ぐ」「観光の多面的な力（地域経済を活発にする力、地域の誇りを再発見させる力、人や地域をつなげる力）を生かす」「力を合わせて観光産業を振興する」ことを確認している。そして観光客数等の計画の目標値を、次頁の表のように設けたのである。

ところで岩手県はここ一、二年の次の好機に期待を寄せる。第一は、東北新幹線の新青森開業である。平成22年12月の東北新幹線八戸→新青森間の開業により、東京→盛岡間の所要時間が2時間強に縮まる。第二は、高速道路料金割引と東北自動車道釜石秋田線の宮守→東和間の貫通が予定されていることだ。第三は、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録が俎上に載っていることである。確かにこれらのポテンシャルは大きいといえる。

	平成20年度(実績)	25年度	30年度(参考値)
県外観光客数	1,549万人	1,700万人	1,800万人
県外宿泊客数	267万人	310万人	330万人
外国人観光客数	9.9万人	17万人	25万人
県外観光客の観光消費額	1,924億円	2,200億円	2,500億円

2 観光基本計画の5つの取り組み

では岩手県の観光基本計画の内容をみてみよう。計画の中心に掲げられたのは5つの取り組みである。

① ゆたかな地域をつくる

第一の取り組みは、「ゆたかな地域をつくる」である。団体旅行から

個人・小グループ型旅行へ、見物型

旅行から体験型旅行へという旅行ニーズの変化に呼応する。観光客にとって魅力的な地域は住んでいる人にとっても魅力的との視点に立つ。

② 担い手を育てる

第二は、不足する観光産業を支える「担い手を育てる」取り組みだ。観光産業にかかる事業所や団体・行政が連携するまとめ役の育成が重視される。また、ホテル・旅館・ホリティ向上させる研修や、厳しい経営環境の旅館・ホテルの経営者層に対する経営指導や連携支援を行うものだ。他方で観光ボランティアガイドやインストラクターの育成などに努めるとする。学生への観光教育や県民への啓発活動の視点から、大学との連携も図られる。

③ お客様にきていただく

知られる河童やざしきわらし伝説など、歴史伝統の魅力を生かした観光の促進に力を入れるのだ。

早池峰神楽などの伝統芸能、柳田國男の「遠野物語」で取り組む。特に平泉の文化遺産や

第三は「お客様にきていただく」ために情報発信を重

視するものだ。マスコミの活用を図るとともに県産品と観光を組み合せた情報発信を強化する。また来県した観光客の利便性をアップすることで、リピーターの確保を試みる。例えば平成22年度予算には早速に1300万円の新規事業費を計上し、JR盛岡駅の改札口付近に「観光サポート」施設を設置しようとしている。



メインキャラクター
そばっち

旅行業者に対する情報発信にも配慮する。きめ細かなツアーアクション企画を提案する一方、「岩手に行きたい空気づく」の促進を図るために「わんこきょうだい」のキャラクターデザインを作成した。これは県内5地域の「食」の特性を著した5兄弟キャラクターをいい、「そばっち」(わんこそば・中部)、「こくっち」(栗、稗などの雑穀・県央)、「おもっち」(すんだもち・県南)、「うにつち」(ウニ丼・三陸)の5つがこれである。

愛嬌もありなかなか人気を高めている。

さらに、平泉を国際観光文化都市として新たなイメージアップを図るな

どで、誘客に結び付けようとの取り組みも重視する。併せて教育旅行やコンベンションの開催、北東北3県での広域連携による広域観光モデルルートの開発にも力を入れようとしている。

④ 快適性を高める

第四は、ひとにやさしい観光地としての「快適性を高める」受け入れ体制づくりである。道路の拡幅や線形の改良等で道路ネットワークの整備を図り、観光案内表示などの整備も進める。また三陸鉄道やIGRいわて銀河鉄道などの鉄道と、バスなど2次交通の接続の円滑化を進めるこというものだ。自然景観と合わせた伝統的な街並みや岩手らしい農山漁村風景の発見と活用を促進し、他方でごみの散乱や清潔な住環境の保護など、クリーンいわて運動も促進される。

⑤ 世界とつながる

第五は国際観光の振興であり、主に中国や台湾、香港、韓国といった東アジアからの外国人観光客の誘客を行う「世界とつながる」という取り組みである。そのため、外国人を受け入れるホテルや旅館の拡大や、外国语に習熟した通訳案内士などの人材育成を図るとする。あるいは

は、外国語版のホームページを充実させることや、外国語によるPRパンフレットや観光マップの作製にも力を入れる。また、いわて花巻空港の平行滑走路整備などで受入れ体制の整備を進めるとしているのだ。

3 「黄金の国、いわて」との強い自負

「黄金の国ジ・パング」。マルコポーロやコロンブスが夢見たその伝説を生んだのが、平泉の中尊寺金色堂だと言われる。平安末期に清衡、基衡、秀衡と奥州藤原3代が栄華を極めたみちのくの大地である。西行が足を運び、

あるいは芭蕉が訪れて『夏草や兵が夢の跡』と謳つてゐる。それだけに、風格の地としての岩手人の誇りは大きい。この地をば浄土思想を具現化した空間とも考えようとしているのだ。岩手県庁職員の名刺には、「黄金の國、いわて」と印刷され、「マルコポーロや西行法師、松尾芭蕉が憧れた理想郷」とさえ記されている。この自信の中で、キャッチフレーズ「ひろげようおもてなしの郷いわて」を合言葉に、滞在型・交流型観光が県内各地で実践され、地域の経済が活性化していくことを目指すとする。その気負いや良しと言うべきである。

城のまちの湧々観光アクションプラン

熊本県熊本市

いま熊本市は、何とも勢いがあるといつてよい。平成19年に「熊本城築城400年祭」が開催され、平成20年には熊本城の本丸御殿の復元がなされた。平成20年の観光客数は571万人を超え、ここ10年来で最高の数値となつた。

近々に予定される2つの出来事が、さらに熊本市の発展に期待を寄せさせる。その一つは平成23年春の九州新幹線の鹿児島ルートの全線開業である。これにより交通アクセスは各段に向上升し、地域経済の活性化はもとより、観光振興の大きな切り札になる。もう一つは平成24年に想定される政令指定都市への移行である。人口73万人の熊本市は、全国で20番目の政令指定都市となる。内外への熊本市の認知度が高まり、民間投資や企業立地の促進、国際イベントの誘致などに期待がかかる。

こうした勢いをさらに堅実に地域振興に結び付けよう

と、市は「熊本市観光振興計画」（副題・湧々観光アクションプラン）を平成22年3月に策定した。本年は、熊本市にとつて「観光元年」ともいうべき重要な意味合いを持つといえよう。

1 観光振興計画の概要

熊本市は、古くから観光振興には力を入れてきた。今から20年も前に「熊本市観光アクションプログラム」を策定している。「城の文化都市・くまもと」を目標像とし、各種施策を展開してきているのだ。平成15年には、熊本市議会も「観光立市くまもと都市宣言」を決議し、市としての観光施策推進の足固めをしつかりと行っている。それを踏まえ熊本市では、立て続けに関連する諸計画を策定する。「くまもと水ブランド創造プラン」（平成18年）、「熊本シティブランド戦略プラン」（平成20年）、「熊本市東アジア戦略」（平成22年）、「熊本市文化芸術振興指針」（平成22年）がこれである。こうした積み重ねが、今日の観光客数の増加に寄与していることは間違いないだろう。

ちなみに熊本市は、「水の都」というフレーズに、大

	平成20年	平成25年	平成30年
観光消費額	687億円	760億円	810億円
宿泊者数	220万2千人	250万人	265万人

いに力を入れているようだ。阿蘇の山々を水源とする、日本最大の地下水都市であるこの地の構造を、市民たちは頗る誇りにしているのである。市民アンケートでも、熊本市民がPRしたい観光施設のトップが「熊本城」、PRしたい観光資源のトップが「熊本の水」だ。熊本市民の「水」に対する愛着は極めて強く、それを熊本の「水ブランド」として発信しようとすることには注目してよい。

さて本年策定した観光振興計画は、観光消費額等の計画の目標値を、上表のように設けた。

この目標は、熊本市特有の歴史や文化を踏まえた観光振興を図るという基本スタンスに立つものだが、端的に言えば、観光振興にとつての喫緊の課題である「新幹線開業」「東アジア戦略」「合併・政令市」を好機として、計画目標を立てていると言つてよい。特に、次の3つの視点を重視しているのだ。

① 関西以西からの観光客をはじめ、東ア

ジアをターゲットとした観光客やコンベンションを誘致する

② 新たな観光資源の掘り起しによる、観光客の受け入れ態勢を充実する

③ 復元整備を進めている熊本城を核とした、観光資源の魅力を向上させる

この視点の趣旨が、本計画では3つの基本方針となつて方向づけられていく。

2 観光振興計画の3つの基本方針

熊本市の観光振興計画の内容を見てみよう。計画の構成は3つの基本方針からなっており、その基本方針のもとに207もの具体的な事業メニューが列挙されている。

① 観光客やコンベンションの誘致

基本方針の第一は、観光客やコンベンションの誘致を

図るというものである。広報宣伝に力を入れることとし、特に九州新幹線の全面開通での関西以西からの観光客と、経済成長が続く東アジア等をターゲットにした誘致活動を進めようとするものだ。関西以西の入込客については、平成30年までに100万人へと倍増させようと意気込む。

インバウンドでは韓国KTX・高速船・九州新幹線と高速鉄道網でつながる韓国や、個人旅行が解禁された中国等に対する積極的な働きかけをしようとする。目標値も同様に平成30年までの倍増の9万人にすることを目指すとした。またコンベンションの誘致については、国際的・全国的な文化・学術会議や、スポーツ大会の誘致も特に重視する。

② 観光客受け入れ態勢の充実

第二は、観光客の受け入れ態勢の充実を図ろうとするものだ。親切な観光案内版や道路標識の設置を進めるとともに、適切な観光施設の管理に努めるとする。観光施設の清掃ボランティア活動や公園のトイレの改築などに取り組むものである。特に熊本城周遊バスの「しろめぐりん」の運行ルートの拡充や、レンタサイクルの活用を図り、移動手段の円滑化を図ることには配慮する。

他方で取り上げるのが、観光イベントの開催だ。熊本の夏の一大イベントである「火の国まつり」「お城まつり」に力を入れることはもちろん、熊本城を舞台とした四季折々のイベントの開催などにも積極的に取り組もうとしている。城下町くまもとのゆかた祭り、銀杏祭、春

まつりなどが次々に設置されていくのだ。

さらに新たな観光ルートの掘り起こしにも取り組むとする。「くまもとさるく」によるまち歩き観光ルートの拡充や歴史ストーリー（加藤家、細川家、宮本武蔵、西南戦争など）を生かした観光ルートの掘り起こしなどがこれである。

③ 主要観光資源の魅力向上

第三は、主要観光資源の魅力向上させるというものである。特に、熊本市のシンボルである熊本城や本丸御殿の利用を徹底的に図ろうというものだ。熊本城と周辺地域への回遊性を向上させ、滞在時間を延長させるとともに、本丸御殿などで様々なイベントを行い、見学施設だけではなく、新たな観光資源としての魅力の創出に努めるとしている。甲冑や着物などの衣装を活用したおもてなしや、熊本城を活用した大会や会議等も今後は検討するとしている。

ところでこの熊本城の整備とファンの獲得について、熊本市では数年前から「一口城主」という取り組みを行っている。ここで少し紹介しておきたい。これは熊本城復元の整備募金を募る仕組みであるが、1万円以上寄



「桜の馬場城彩苑（じょうさいえん）」平成23年3月5日オープン予定。

板が所狭しと並べられ、なかなかの圧巻である。平成10年から19年まで実施された第1回目は2万7千人から12億円の寄付が集められた。第2回目は平成21年に再開され、現在（平成22年8月）までに3万4千人、4億円の応募となっている。資金の手立てに寄与することもさることながら、他の効用もあるようだ。「自分の名前が芳名板の載るのを確認したくて、幾度もお城に足を運ぶんですよ。観光客数がそれによつて増えることになります。ありがとうございます」と熊本城総合事務所は楽しそうに説明する。加えて、「手前味噌となってしまうんですが、この募集の方法は好評で、名古屋城にも、姫路城にも活用され、最近では京都の二条城も採用されると聞いています」。評価すべき仕掛けというべきである。

3 熊本城への市民の根強い誇り

熊本城は、加藤清正が慶長年間に築いたものだ。二重の濠も、優美な曲線を描く石垣も「武者返し」と呼ばれ、難攻不落に設計された。築城から270年後の西南戦争の時に、この城に籠城した官軍を、薩摩はついに攻め落とすことが出来なかつた。西郷隆盛は、「わいどんは、清正と戦つて負けたようなものだ」と嘆いたと言う。このエピソードも熊本人には誇りである。

その加藤清正が朝鮮出兵したおり築城したのが韓国の蔚山倭城。その蔚山市と熊本市が、平成22年4月に友好協力都市として調印を行つた。韓国側にとつては宿怨ともいわれる加藤清正であり、熊本市である。しかしそうした歴史観を超えて、両市は未来志向の関係を築こうとの思いを持つての調印である。その交流の主軸が、ほかならぬ観光なのである。観光は産業振興と地域活性化の軸であるばかりか、国際友好と平和の軸でもあるのだ。このことを熊本市の取り組みが、全国に発信しているともいえるのである。

時代祭り

時代祭りは、平安京遷都1100年を機に創建された平安神宮を記念する事業として1895（明治28）年に始まつた。時代祭りが行われる10月22日は、桓武天皇が794（延暦13）年に長岡京から平安京に都を移された日である。この祭の特色は、神幸祭、行在所祭、還幸祭の神儀のほか、時代行列が行われることで、京都全市域からなる市民組織である「平安講社」により運営されている。当初は6列、人員500名の規模であったが、現在は明治維新時代、江戸時代、安土桃山時代、室町時代、吉野時代、鎌倉時代、藤原時代、延暦時代の8つの時代ごとの20の列で構成され、時代装束を身に付けた総勢約2000名もの人々が参加する一大時代絵巻となつていて。行列は、山国勤王隊を先頭に、正午に京都御所建礼門前を出発し、烏丸通、御池通、河原町通、三条通から平安神宮まで4・5キロ間をねり歩く。この時代祭りは、5月の賀茂神社の葵祭り、7月の八坂神社の祇園祭りとともに京都三大祭の一つに数えられている。しかし葵祭りも祇園祭りも1000年以上の歴史を持つのに比べ、100年余と歴史的には一番浅い。

（出典：松蔭大学編「観光キーワード事典」）

法制執務・政策法務を支援する総合情報誌

自治体法務研究

財団法人 地方自治研究機構／編集

法制・立法担当者必読! 実務に役立つ情報・知識を、
年4回、タイムリーにお届けします。

4つの基本コンセプトで構成

- ① 条例の解説
- ② 判例の解説
- ③ 法令等の解説
- ④ 自治体法務質疑応答

① 条例の解説 特集

自治体を取り巻く政策法務の環境の中から、特に関心の高いテーマを取り上げ、条例化へのポイントや手法を多角的に検討し、条例の事例を紹介します。

② 判例の解説 CLOSE UP 先進・ユニーク条例

条例制定の経緯、背景、実績、住民の評価等を解説し、事例により学者が分析・評価します。

③ 法令等の解説 条例立案演習

新規条例の立案について誌上で演習します。

④ 自治体法務質疑応答 トピックス

話題の法律・判例等について、自治体や議会のかかわりを解説します。

④ 自治体法務に関する質疑応答 自治体法務Q&A

読者から寄せられた質問に、実務家が実践的に回答します。

◆その他

条例情報フォルダ

全国の条例・自治体法務情報の紹介など、条例に関する情報が満載。



季刊(年4回発行)

・A4変型判・縦組み・本文128ページ

定価1,200円(本体1,143円)

年間購読4,800円

(※定価は5%税込価格です。)

ご注文・お問合せ・
資料請求は右記まで



株式会社 ぎょうせい

〒136-8575 東京都江東区新木場1丁目18-11

フリー
コール

TEL : 0120-953-431 [平日9~17時]
FAX : 0120-953-495 [24時間受付]

Web

<http://gyosei.jp>

[HPからも販売中]